

慶応二年三月八日より慶応二年三月十日まで

P8310573 right

朝第六時前、日坂出立、佐本中山下り□にて、(司農)中島(唯八)に行遊(日)□監察(藤八)に面晤
第十一時前

(藤枝府中)藤枝午休、領主より何等手数無し、夕第四時半府中着、大井川渡船濟賀来時のすし
廻り夫々遣す、当町奉行加藤(大■州)へ来時の謝旁托せし物、相届け□報告したため、使者も

遣し候積りの処、当地御城番へ転じ御城内へ引移り依ては夕七つ時より出入禁止に付、使者も
遣し兼追て江府より書通可致事、当所入口阿部川渡し場に当所町同心四人出張内兩人は

渡船人足取□向見届内兩人は附添に付、名前□なし、出す、同心用聞に来る、中山(誠)より手附
藤沢某を以て旅宿問尋せしめ、同人も旅行中にて明夕当駅泊りの趣也

九日辰 雨朝止漸晴雲

(蒲原)朝第五時半過、府中出立、第十二時蒲原午休、岩淵にては□て小休を□られ栗粉糕を

P8310573 left

(原)出し、且雨畑小硯(*)老葉の道中□を出す、茶代を以、酬はしむ、夕方六時半前原へ着、
近傍柏原

沼鰻の名あるにより試む

十日巳 晴陰数変 午下雨乍止漸に晴 山絶頂に至り晴雨計風雨の方の□度より二十一分

五より過ぐ

暁第四時前、原出立、沼津にては問屋場前に人馬差配役のもの兩人追手前に家来壱人先払

足軽兩人出役有し、箱根山中の立場に近きしに山中本陣出迎居りしより立寄小休の処、阿部川餅

赤飯へ

煮物等添し設あり、且湖水産(赤はし魚十枚連)を出す、茶料を以酬ふ、同所本陣宗閑寺という

名刹を添

(箱根)小休所へ差越、是又茶料を遣す、第十二時箱根午休旅亭酒肴(甚粗薄品也)の役あり茶料

を増し遣す

当駅は本陣六家有し、一度休泊の宿いたし候時は永代の宿に定め候、申し届て、此度初ての

休は幸福云々

等の義、申聞る、夕第六時前小田原着、領主より先払足軽兩人出、本陣より駅産紫蘇梅一器さし

出す

*1:雨畑硯(あめはたすずり) ブランド品

()内は細字双行(二行に小さい文字で二行書き)などの場合です。

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。

【文字判読不可】、■は、文章の一部に汚れがある、虫食いにより文字が無い等です。